9章1節2　現代文（小説）『デューク』

1 現代文（小説）『デューク』

授業者：酒井将平　１学期期末　　２年生２クラス

本質目標	大切な存在の死と向き合い、乗り越えていくとき、最も適しているあり方を想定することができる。 江國香織（1996）『デューク』「つめたいよるに」新潮文庫,p.11-20	
本質的な問い	近くに大切な存在を亡くして悲しんでいる人がいた場合、どう接することができるか？	
達成目標	❶登場人物の心情を、情景描写や比喩などから推測することができる。 ❷物語の「ドラマを生み出す仕掛け」をいかして、自分の生活を演出することができる。 ❸大切な存在を失った人に対して、自分に一番向いている関わり方を想定することができる。	
レディネス	物語における登場人物の気持ちと言動の変化のつながり。	
関連項目	超高齢化社会、表現技法、語り手	
扱う内容	E	大切な存在を失った人に対してどのように接することが大事か、また自分に一番向いている接し方とは何かを考える。
	C	情景描写や比喩についての理解を深め、登場人物の言動などと関係づけて、気持ちの変化に迫る。
	I	既習作品や実生活における体験などをつなげて考えることで、概念やイメージを明確にしていく。
達成の手立て	フレーム構成	I → E1 → C1 →C2 → C3 → E2
	I：スライドなどで年間死亡者数の統計などを示し、超高齢化社会の現状から、多死社会へと突入していくことについて共通理解をつくる。 E1：「死別」に対するそれぞれの考え方を共有する。 C1：物語の謎について、「蘇り」を扱った作品と比較しながら考える。 C2：登場人物の一見矛盾する行動に着目し、自分ならどうするかを考える。 C3：大切な存在を失った時に生じる感情について考える。 E2：大切な存在を失った人に対してどのように接することが大事かを考える。	
コア(論点)	「死別を『思い出』にすることはできるか？」 大切な存在を失うのは悲しい出来事である。しかし、いつかはそれを乗り越えて生きていかなくてはならない。死別をどのように意義づけるか、どうやったら意義づけることができるか、そもそも、意義づけることは可能かということを考えていきたい。	
実践振り返り	①これまで読んだ文章と比較することで情景描写、比喩について考えを深めていた。 ②「ドラマを生み出す仕掛け」というものの見方で物語を見つめはじめていた。 ③生活や社会とつなげて文章を読むことに意義を感じながら取り組んでくれていた。	
デザイン要素	新規、意外、刺激、探究、使命、協働、貢献、身体、面白、社会、持続	

問いの構造化

	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い		②あなたは「少年」が自分の正体をばらしたかどうかを判断する立場にあります。あなたはどちらだと判断しますか？	①辛いこともいつかは良い思い出になると言いますが、大切な存在を失った経験でも、いつかはいい思い出になると思いますか？
洞察を促す問い	③本文中の２つの「悲しみ」に違いはありますか？	④「少年」は「私」をとても愛していました。それにもかかわらず、「私」を直接元気づけたり、励ましたりしないのはなぜでしょうか？	
本質的な問い	⑤「私」の気持ちはどのように変化していきますか？	⑥大切な人を亡くしたとき、悲しみだけではなく、なぜ「怒り」や「自責の念」のようなものが生まれるのでしょうか？	⑦もし近くに、大切な存在を亡くして悲しんでいる人がいたら、あなたならどう接しますか？

生徒の変容

	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	情景描写や比喩の機能やメリットを説明できる。	情景描写や比喩と登場人物の気持ちや言動を関係づけることができる。	情景描写や比喩を用いることで、相手の心を動かすことができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	作品の中の「ドラマを生み出す仕掛け」を指摘できる。	「ドラマを生み出す仕掛け」について、そのからくりを他の物語や実生活との関係から分析することができる。	「ドラマを生み出す仕掛け」を生かして、自分の生活を演出することができる。
汎用的な能力	超高齢化社会において死別と向き合うことの大切さを認識する。	大切な存在を失った人がどのような気持ちの変化をたどるかを予想することができる。	大切な存在を失った人に対して、自分に一番向いている関わり方を想定することができる。

評価

	Ideas	Connections	Extensions
知識・技能	A・B・C・D　[　]	A・B・C・D　[　]	~~A・B・C・D　[　]~~
見方・考え方	A・B・C・D　[　]	A・B・C・D　[　]	A・B・C・D　[　]
汎用的能力	A・B・C・D　[　]	A・B・C・D　[　]	A・B・C・D　[　]

2 江國香織『デューク』を扱った国語（現代文）の実践詳細

酒井将平

成果と課題

①既習の文章とつなげて学ぶことで読解の技術について考えを深めることができた。
②「ドラマを生み出す仕掛け」をいうものの見方を設定し、文章を扱うことができた。
③生活や社会とつなげて読むことで、文章を読むことの意義を醸成することができた。

keyword：つなげて読む、「ドラマを生み出す仕掛け」、読む意義

1 実践の学年、科目、授業、単位数、単元、時期、場面等は？

- ２年生の現代文（３単位）における実践。
- １学期中間後、期末考査に向けての授業。
- 教材は江國香織の小説『デューク』［１］。

2 どんな動機や背景、課題があったか？

❶情景描写や比喩を読み解く難しさ

１学期の中間考査やそれまでの授業の中で、情景描写や比喩を読み解くことへの苦手意識を感じていました。表現技法の名前や種類は知っているのですが、「それがなぜ必要か」、「それを使うとどうなるか」を聞くとなかなか答えが返ってきませんでした。そこで、これまで読んできた小説を使いながら、表現技法そのものについて考えてみようと思いました。

❷物語を読むこと自体への意義づけ

物語にはとても大きな力があります。しかし、物語の内容やそのドラマを、我々の人生に直接生かすことはなかなかできません。そこで、物語が持っている「ドラマを生み出す仕掛け」に着目してはどうかと考えました。物語の作り手は、夕暮れ時や、日の出の前をドラマが動く時間帯として設定します。このような仕掛けを通じてドラマを盛り上げていくことになります。私たちにも、日々の生活の中でドラマ性を生み出したい瞬間があります。物語で用いられた仕掛けを生かして、生活を演出することができるとしたら、「物語」を読む１つの意義になるのではないかと考えました。

❸文章の内容への意義づけ

身近な人の死と直面したとき、どのように向き合っていけばよいのでしょうか。とても繊細で難しい問題です。この繊細さと難しさゆえに、死別との直面は様々な問題を生じることがあります。そのような問題をうまく乗り越えるために、自分たちはどうすればよいのか、何ができるのかを考えることに、小説『デューク』を読む意義があると考えました。そして、超高齢化社会を迎えた今、その意義はますます大きくなると思いました。

3 ICE ルーブリックへの位置づけ

❶に関して、読解の知識や技術として情景描写と比喩という観点を設定しました。Extensions には「情景描写や比喩を用いることで、相手の心を動かすことができる。」などが設定できると考えました。

	Ideas	Connections	Extensions
情景描写、比喩	情景描写や比喩の機能やメリットを説明できる。	情景描写や比喩と登場人物の気持ちや言動を関係づけることができる。	情景描写や比喩を用いることで、相手の心を動かすことができる。

❷について、「ドラマを生み出す仕掛け」というものの見方を観点として設定しました。作品ごとに個別に言及するのではなく、国語のものの見方として継続的に設定することができないかと考えました。

	Ideas	Connections	Extensions
ドラマを生み出す仕掛け	作品の中の「ドラマを生み出す仕掛け」を指摘できる。	「ドラマを生み出す仕掛け」について、そのからくりを他の作品や実生活との関係から分析することができる。	「ドラマを生み出す仕掛け」を生かして、自分の生活を演出することができる。

❸に基づいて、「死別と向き合う」という観点を設定しました。生活や実社会へのつながりを明確にしながら小説を読んでいくことにしました。

	Ideas	Connections	Extensions
死別と向き合う	超高齢化社会において死別と向き合うことの大切さを認識する。	大切な存在を失った人がどのような気持ちの変化をたどるかを予想することができる。	大切な存在を失った人に対して、自分に一番向いている関わり方を想定することができる。

4 どのように実践したか？

❶❷のために：既習の物語とのつながり

情景描写や比喩、「ドラマを生み出す仕掛け」を考える材料として、これまでに授業で読んだ物語を用いました。全員が共有している物語を下地にして、表現を比較していくためです。共通点や相違点を考えるようにしました。

	共通点	ドラマを生み出す仕掛け
『羅生門』	「或日の暮方」［2］	夕暮れ時、マジックアワー
『デューク』	「うす青い夕暮れ」［3］	
『調律師のるみ子さん』	「薄曇りの夕方」［4］	

❸のために：つながりを「問いの構造化」によってデザイン

文章の内容に意義を感じてもらうために、生活や社会とのつながりに着目することにしました。まず、授業の導入で日常の１コマを切り取った写真を黒板に写し、それについてやりとりしながら、その日の観点を設定しました。その観点に沿って文章から情報を集めたのち、生活や社会という「文脈」から観点について考えるような流れを意識しました。また、自分とは異なった考えを大切にするために、できる限りクラスメイトの考えをクラスで共有し、自分との共通点や相違点を探すようにしました。この流れを、評価可能な学びとして扱うために、柞磨昭孝（2017：64）で紹介された「問いの構造化」によって授業をデザインしました。

	Ideas	Connections	Extensions
導入の問い	①クラスメイトが考えた「もしよみがえったら？」の中に、面白いアイデアはありましたか？あったら、それに線を引いてください。		
洞察を促す問い		②「少年」は「私」をとても愛していました。それにもかかわらず、「私」を直接元気づけたり、励ましたりしないのはなぜでしょうか？	
本質的な問い			③もし、あなたの近くに、大切な存在を亡くして悲しんでいる人がいたら、あなたならどう接しますか？　そう接しようと思った理由も添えて答えてください。

5 実践した感触はどうか？

①つながりによる新しい発見

作品を比較して扱うことで、それぞれの作品における表現技法の指導法について、新しい発見がありました。教師にとっても共通点や相違点を考えることが学びを深めるきっかけになることを改めて感じました。

②読むことと生活をつなげる力

「ドラマを生み出す仕掛け」を扱うことで、物語を読むことについて新しい意義づけを行うことができました。「ドラマを生み出す仕掛け」はとても身近なものなので、生活と物語をつなげる力として機能することを実感しました。

③「教える」ことからの脱却

生活とのつながりに着目することは、授業進度や定期考査との関係からとても大きな冒険でしたが、「問いの構造化」を用いることで、国語の学びの中に位置づけることができたと感じています。「死別」についての生徒とのやりとりは、「教える」、「教えられる」という関係からの脱却を感じました。

6 生徒の変容は？

①比較が生む深まり

既習の文章を材料にすることで、意見を出しやすい雰囲気が生まれていました。また、比較することで理解を深め、情景描写と比喩から登場人物の心理へ迫るためのコツをつかんでいるようでした。

②ものの見方への気づき

物語を比較することで、共通点があることへの不思議さを感じているようでした。「ドラマを生み出す仕掛け」に対する気づきを促すことができました。

③つながりが深まりへ

「死別」は繊細な内容であるため、必ずしも活発なやりとりがあったとは言えません。それでも、こちらの問いかけに対して真剣に考え、自分とのつながりを考えてプリントに書き込んでいる姿には、表面的なやりとり以上の深まりを感じました。

7 今後の課題は？

①より：Extensions の学びを「現代文」で扱うには？

現代文の授業の中で、情景描写や比喩についてのExtensionsの学び（「情景描写や比喩を用いることで、相手の心を動かすことができる。」）を扱うことに難しさを感じました。扱い方の工夫や、他の科目での扱いとする必要性を感じました。

②より：担当教員との足並みをどのようにそろえるか？

教科の「ものの見方」の扱いは、授業の中で大きな位置を占めます。準備にかかる時間も授業で費やす時間も多くなります。担当者間で扱うものの見方が異なる場合には、打ち合わせの際、指導事項の確認だけでなく、なぜ国語を教えるのかというような本質的な目的の擦り合わせが必要になると感じました。

③より：試験問題をどうするか？

生活や社会とつなげて読むことは点数化しにくい学びです。しかし、考えに整合性があるか、必要な情報や観点を踏まえているかなどの基準で評価をすることは可能だと考えています。採点のしやすい形で出題できれば、学校での学びと社会とのつながりを意識づけることができるのではないかと思います。

《参考文献》
1　江國香織（1996）『デューク』「つめたいよるに」新潮文庫 ,p.11-20
2　芥川龍之介（1968）『羅生門』「羅生門・鼻」新潮文庫 ,p.8
3　江國香織（1996）『デューク』「つめたいよるに」新潮文庫 ,p.18
4　いしいしんじ（2006）『調律師のるみ子さん』「雪屋のロッスさん」メディアファクトリー ,p.16
5　柞磨昭孝（2017）「ICE モデルで拓く主体的な学び　成長を促すフレームワークの実践」東信堂